



海越しの立山連峰が望める
JR水見線（越中国分～雨晴）



北陸新幹線（W7系）
H27.3.14デビュー



あいの風とやま鉄道
イベント列車「とやま絵巻」



富山地方鉄道・本線
観光列車
ダブルデッカーエクスプレス



富山地方鉄道・立山線
水戸岡鋭治氏デザイン
観光列車 アルプスエクスプレス



富山地方鉄道 不二越・上滝線
かぼちゃ電車の愛称で親しまれる
10030系



富山地方鉄道 市内電車
水戸岡鋭治氏デザイン
レトロ電車



加越能バス
世界遺産バス



万葉線
ドラえもんトラム



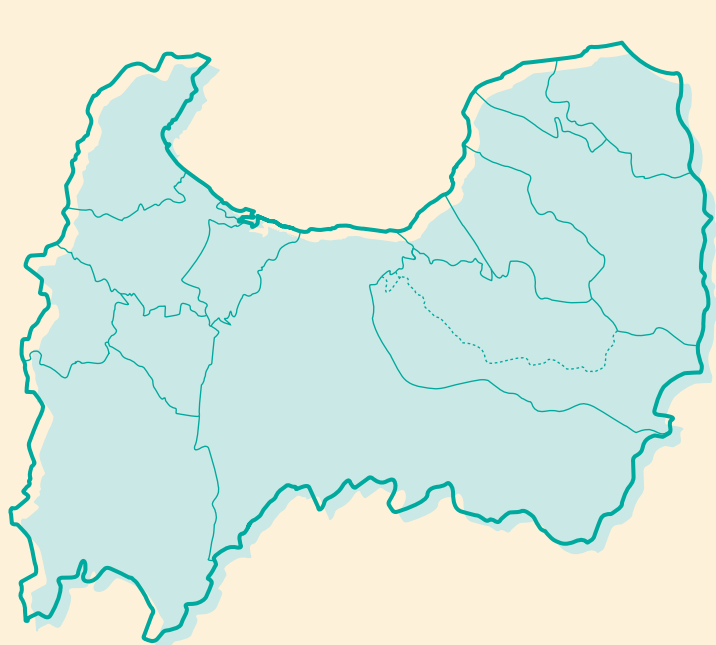
あいの風とやま鉄道
新型車両521系（H27.3.14開業）



加越能バス
歴史都市高岡周遊観光バス
まわるん



JR富山港線を引継いだ
富山ライトレール



富山県地域交通ビジョン

概要版

～つかいやすく、わかりやすい、持続可能な地域公共交通の実現～



黒部峡谷を走る
トロッコ電車



立山の玄関口へご案内
立山ケーブルカー



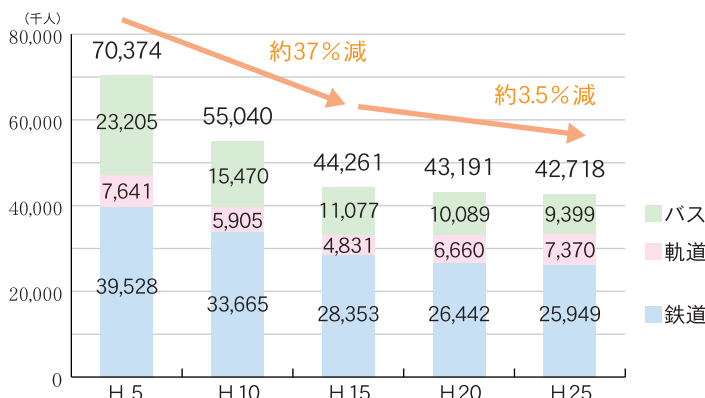
富山地方鉄道
観光バス

平成28年3月
富山県

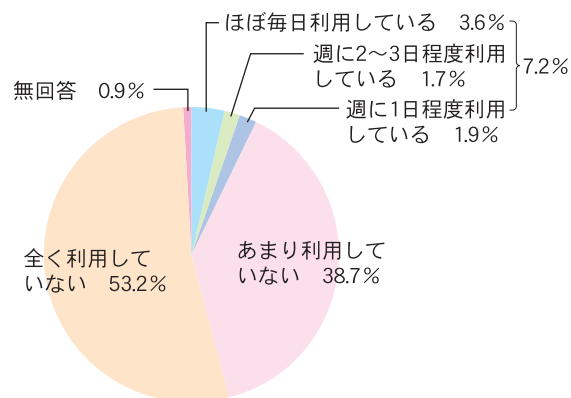
富山県の地域交通の現状と課題

地域交通利用の傾向と新幹線開業後の状況

- 近年、本県の鉄軌道・バスの輸送人員は減少傾向（H5～H15で△約37%）が続いていましたが、直近の10年間（H15～H25）は軌道の利用者の増加等により、3.5%の減少にとどまっています。
- 北陸新幹線開業（H27.3）により、鉄道を利用した北陸地域と首都圏との流動人口は約3倍に増加。県内観光地の入込客数が増加し、地域交通の利用者も開業前に比べ増加しています。
- 本県は車を保有する世帯の割合が高く、週1回以上地域交通を利用している県民の割合は7%程度と低い状況にあります。



(図1) 地域交通（鉄軌道、バス）の年間利用者数の推移



(図2) 現在地域交通を利用する頻度について
出典) H27県政世論調査

今後の見込み等

- 今後、少子高齢化の進展により、本県も人口減少が見込まれ、地域交通を取り巻く環境は厳しく、利用者の減少や交通サービスの低下が懸念されます。
- 一方、高齢者の免許返納者の増加などが見込まれるほか、近年、高齢者の交通事故も増えており、こうした車を利用しない方々の日常生活を支える交通サービスの確保・充実が重要となります。
- このため、本県の多様な地域交通網を有効に活用し、交通事業者、行政、県民、企業、団体等が連携協力し、持続可能な地域交通を目指した取組みを推進する必要があります。

主な課題等

域内交通

- ・ 近年、路線バスの廃止された地域等では、市町村がコミュニティバスの運行により生活の足を確保しています。
- ・ 路線バスの運行が適さない地域では、交通サービスの空白地域になっています。
- ・ コミュニティバスは、大多数が赤字路線で、多額の公費により支えられています。
- ・ 公共交通空白地域の解消のため、デマンド交通など地域の実情に応じた生活交通サービスの提供などが期待されます。

域間交通

- ・ 交通機関相互の接続利便性が低い地域では、拠点施設への移動に時間がかかり、地域交通が利用されない傾向があります。
- ・ 交通事業者間の連携により、接続利便性を高めるなど、利用促進を図る工夫が求められます。

広域交通

- ・ 県外・国外からの来訪者増加に対応し、観光地を周遊できる地域交通ネットワークのさらなる充実が求められます。
- ・ 駅を利用する観光客等からは交通手段が分かりにくいとの意見が多くなっています。
- ・ 来訪者の多様なニーズに対応できるよう、駅やバス停、車両、バス内において、多言語対応の案内表記等、個人旅行者が利用しやすい環境整備が求められます。

交通事業者

- ・ 交通サービスの維持向上に努めていますが、利用者の減少など、経営環境は厳しい状況にあります。
- ・ 一部の施設・設備は老朽化が進み、計画的な更新が必要になっています。
- ・ バス運転者など交通サービスの担い手の確保が重要な課題となっています。

地域交通ビジョンの基本理念と基本目標

このビジョンは、北陸新幹線開業後の交通環境の変化等を踏まえ、地域交通ネットワークの確保・充実に向け、今後10年間の富山県の地域交通の目指すべき目標や基本的な方向性を示すものです。※本ビジョンでは「地域交通」は、主に鉄道、バス、タクシーなど公共交通を対象とする。

基本理念

利用目的に応じた利便性の高い 地域交通ネットワークを形成すること

- ・本県の地域交通を取り巻く環境は厳しいですが、欧州等の地域交通先進地域では、利便性の向上を図ることで利用者の増加に結びついている例があります。
- ・本県では、北陸新幹線開業による来訪者の増加や、多様な地域鉄軌道網が存続し運行されているなどプラス要素も見られます。
- ・こうしたことを踏まえ、基本理念を「**利用目的に応じた利便性の高い地域交通ネットワークを形成すること**」とし、**つかいやすく、わかりやすい、持続可能な**地域公共交通を目指します。

※3つのキーワード

- 運行ダイヤや乗継が便利で、誰もが利用しやすい鉄軌道やバスを目指す「**つかいやすい**」地域交通
- 運行・乗継情報や交通案内が充実し、誰もが円滑に移動できることを目指す「**わかりやすい**」地域交通
- 一定の利用水準を維持するとともに、効率性や採算性等も考慮しながら、県内の地域公共交通ネットワークを確保し続けることを目指す「**持続可能な**」地域交通

基本目標

県、市町村、交通事業者、県民が連携、協力し、国の支援制度も活用しつつ必要な取組みを進め、次の3つの基本目標の実現に努めます。

①利便性向上による県民等の地域交通の利用促進

地域交通サービスの利便性向上により、県民の生活の質を確保し、県民等の地域交通の利用を促進します。

②国内外の来訪者の円滑な移動の実現

北陸新幹線の開業を契機とする国内外の来訪者の増加に対応し、円滑な移動の実現により、地域交通の活性化を図ります。

③持続可能で多様な地域交通サービスの実現

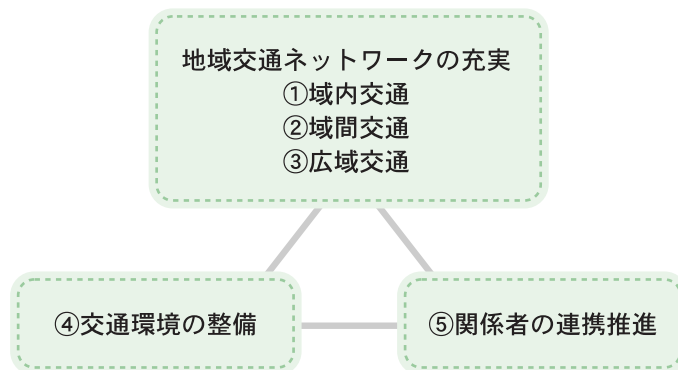
少子高齢化・人口減少社会の中で、今後も一定の利用水準を維持するとともに、効率性や採算性等も考慮した持続可能で多様な地域交通サービスの実現を図ります。

基本目標の実現に向けた取組みを進めることにより、地域交通の利用者数について、新幹線開業後の現在の利用水準の維持に努めます。

5つの視点から進める取組み

基本目標の実現を図るため、5つの視点から必要な取組みを進めます。

なお、取組みの実施にあたっては、安全で利便性の高い地域交通サービスの提供を、県民や地域住民のコンセンサス・まちづくりとの関係や、投資の効率性・採算性等に留意しながら進めます。



(図3) 取組みの視点のイメージ図

域内交通

【基本的な方向】

市町村のまちづくり計画と連携した地域内の交通ネットワークの充実と利用促進

【具体的施策】

① 市町村におけるまちづくり計画と連携した地域交通ネットワークの計画の策定とその推進

- ・市町村において、関係者が連携し、まちづくり計画を踏まえて地域交通計画を策定
- ・「地域交通会議」において、地域交通サービスの充実方策を検討し推進
- ・地域内の交通計画について、住民ニーズ等を定期的に検証し必要な見直しを実施。バスは、利便性と効率性の観点から、持続可能な路線に見直し

② 地域の実情に応じた多様な地域交通サービスの展開

- ・民間事業者のみならず、行政やNPOなど多様な主体による交通サービスの提供を検討
- ・バス路線は、適宜、地域内の拠点を効果的に結ぶ路線となっているかの観点から、ルートや運行本数を見直すなど、路線バス事業を充実
- ・域内の利用状況等の調査や実証運行等によりニーズを確認しながら、生活路線を確保・充実

③ 公共交通不便地域の利便性の確保

- ・山間地などにおいて、路線バスの代替としてデマンド交通により対応するなど、公共交通不便地域の利便性を確保

域間交通

【基本的な方向】

豊富な鉄軌道網等を活用した地域間の交通ネットワークの充実と利用促進

【具体的施策】

① 公共交通機関相互の接続利便性の向上等

- ・交通事業者間でダイヤづくりのコンセプトを共有・協議する場の設置を検討
- ・ダイヤ調整や相互の乗継ぎ案内など、接続する交通事業者間の連携による利便性の向上
- ・北陸新幹線との接続路線で増便試行などが行われており、利用状況等を確認し、安定的な運行となるよう検討
- ・利用者ニーズや期待される効率性を踏まえ、引き続き、交通事業者が連携した企画きっぷを造成
- ・あいの風とやま鉄道の「高岡～西高岡間」、「富山～東富山間」で新駅整備を推進
- ・既存鉄道駅の改札口の改良、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の推進

② 利便性を考慮した等時隔ダイヤの実現

- ・等時隔ダイヤについて、可能なかぎり実現できるよう検討

③ 拠点駅など交通結節点の機能強化

- ・待合室や案内表示などの駅舎整備や駅周辺の整備を進め、拠点機能を強化
- ・富山駅での市内軌道とライトレールの南北接続など、交通機関相互の連携によるアクセス利便性の向上
- ・利用者ニーズを踏まえ、鉄軌道駅からのフィーダー系バスの充実
- ・パークアンドライド駐車場や駐輪場の整備により、車利用者による地域交通の利用機会を拡大

④ 複数の市町村等の連携による地域交通の利便性向上

- ・「城端・水見線活性化推進協議会」によるJR城端線の増便試行など、複数の沿線市町村の連携協力による利便性の向上
- ・JR高山本線において、利用状況等を踏まえ、引き続き普通列車の増便により利便性を確保
- ・利用者ニーズや路線採算性を踏まえ、複数市町村に跨る路線バスやコミュニティバスを安定的に運行

広域交通

【基本的な方向】

新幹線駅や空港を起点とした広域的な交通ネットワークの充実と利便性の向上

【具体的施策】

① 北陸新幹線の県内駅、富山きときと空港との交通ネットワークの充実

- ・本県の交通の玄関口である新幹線各駅や空港からの交通ネットワークの充実
- ・新幹線駅と主要観光地等を結ぶ観光路線バスの運行など観光路線の整備・充実
- ・新幹線駅の駅前交通広場など交通玄関口の整備充実、駐車場情報等の案内の工夫
- ・来訪者に対し、新幹線駅からの広域的なアクセス情報を分かりやすく提供

② 広域周遊観光ルートの充実

- ・北陸新幹線との接続ダイヤの改善や広域周遊きっぷの造成など、広域周遊ルートの整備・充実
- ・新幹線駅からの周遊ルートの充実など、周辺観光地等と連携した効果的な取組み
- ・北陸新幹線とJR高山本線を活用した広域周遊観光ルートについて、交通事業者のほか、隣県や沿線市と連携し魅力発信

③ 地域観光資源と連携した多様な観光列車の運行

- ・「アルプスエクスプレス」や「べるもんた」などの観光列車やこれを活用した沿線市町村のおもてなしの充実などによる広域観光の推進
- ・あいの風とやま鉄道においても観光列車の導入を推進
- ・観光列車一日フリー切符の造成など、観光列車の旅行商品による誘客促進

④ 交通情報等の提供

- ・外国語での表示など、観光客への駅構内でのわかりやすい案内板の整備充実
- ・観光地を経由する路線バスの外国語表示など車内案内等を充実
- ・「富山らくらく交通ナビ」の活用やアクセスマップの整備など、国内外の個人観光客向けの交通案内情報の提供の充実
- ・駅舎等でのフリーWi-Fi（「TOYAMA Free Wi-Fi」など）の整備を推進
- ・富山駅に「訪日旅行センター・富山旅行センター」の整備を推進

交通環境の整備

【基本的な方向】

利用者にやさしい、安全・安心な地域交通環境の整備

【具体的施策】

① 全国相互利用可能な交通ICカードの導入促進

- ・万葉線での全国相互利用可能な交通ICカードの導入の検討
- ・県内での全国相互利用可能な交通ICカードの導入（片利用を含む）について研究を推進

② 駅舎・バス停等の利便性の向上

- ・拠点性の高い駅のバリアフリー化の推進
- ・電停等のスロープの設置や、駅のトイレの環境改善、バス停の上屋等の設置の推進
- ・計画的に低床車両やノンステップバスの導入を推進
- ・「バスロケーションシステム」の導入の推進など迅速な情報提供
- ・地元自治会等と連携し、駅や駅周辺の環境整備活動を推進
- ・環境に配慮したハイブリッドバスや電気バスの導入を推進
- ・沿線市町村等と連携し、車両のラッピング等による地域交通のイメージアップ

③ 多様なニーズに対応した付加価値の高い地域交通サービスの提供

- ・福祉タクシーの導入など、高齢者等を援助するタクシー事業を推進
- ・商業施設における買い物バスの運行など、高齢者等の買い物支援を推進
- ・通院時の移送サービスの充実のほか、高齢者の外出機会の拡大と地域交通の利用促進
- ・バスやタクシーの利用券の配布など、免許返納者への生活交通の利用を支援

④ 安全・安心な地域交通の基盤づくり

- ・鉄軌道施設の適切な維持管理や老朽化対策の計画的な実施による安全・安心な地域交通の基盤づくりの推進

関係者の連携による取組みの推進

【基本的な方向】

交通事業者・行政・県民等が連携協力し、地域交通の利用啓発や持続可能な事業環境の整備

【具体的施策】

① 「鉄軌道王国とやま」の情報発信

- ・関係者が連携し、国内外に「鉄軌道王国とやま」を継続的に情報発信

② 県民の地域交通の利用促進に向けた啓発活動

- ・住民の利用に支えられている地域交通の周知・啓発。地域イベントや商店・飲食店等と連携した割引切符などによる利用促進
- ・「ノーマイカー運動」について、駅周辺の事業所等との連携強化など、多くの県民に参加を求め、効果的に実施
- ・マナー教室の開催など、地域住民への交通マナーの啓発活動の実施
- ・子どものころから地域交通の利用啓発を図るため、小中学校の移動学習において地域交通を活用

③ バス運転者の確保など人材育成と交通従事者のおもてなし力の向上

- ・バス運転者の安定的な確保に向け、PRポスターの作成など、関係者が連携し啓発活動を実施
- ・国内外からの来訪者の増加に対応し、運転者など交通従事者のホスピタリティの向上やマナー教育に積極的に取り組む

目標の設定

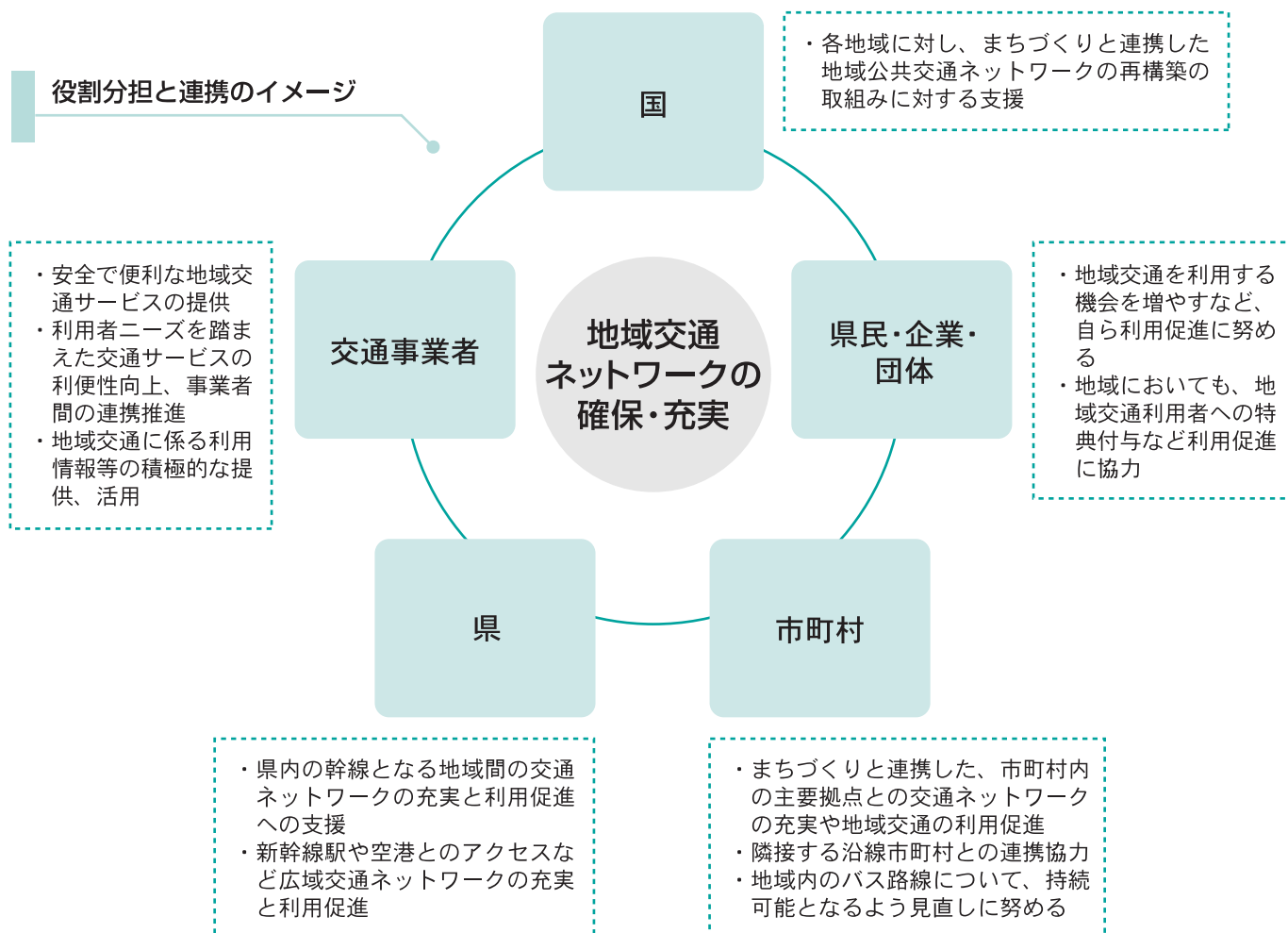
取組みを進めることにより達成する目標として、次の10項目を設定します。



※目標はH37までを想定

役割分担と連携

本ビジョンの実現に向けて、関係者がそれぞれ役割分担を行い、連携、協力し、必要な取組みを進めます。



ビジョンの実現に向けて

地域交通ビジョンのフォローアップ会議の設置

- 効果的に取組みを進めるため、関係者によるフォローアップ会議を設置します。
- 各取組みについて、短期、中期、長期等の取り組む時期等を検討、調整するとともに、定期的実施状況等を確認することとします。
- 必要に応じて、取り組む施策の検討や、目標指標の見直しを行います。

データの活用と分析

- 地域交通の状況を的確に把握するため、交通事業者の協力により、利用状況等のデータの提供と分析を進めます。
- 交通ＩＣカード導入の状況や、国における新たなビッグデータの利活用の進展なども踏まえながら、検討、分析します。

新たなシステムや取組みの情報収集と有効活用

- 地域交通に関する先進的なシステムや取組みについて情報収集するとともに、関係者間で情報共有を図り、本県での導入可能性の研究など利便性向上の取組みを進めます。



富山県知事政策局総合交通政策室

〒930-8501 富山市新総曲輪 1 - 7

平成28年9月作成